

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察 (A 高等学校 第 2 学年 1 時目)

◆本時の考察の視点

本時のねらい『強み』に着目した交流活動を通して、自分や友達の『強み』を知ることができるようにする」を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートの記述や授業中の様子等も参考にしています。

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたかを考察します。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができましたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は68.0%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は24.0%でした（図1）。また、生徒の振り返りシートには、「自分の『強み』を自分で考えることが少ないので、良い時間になった」「あまり話したことがない人とグループになって少し不安だったが、楽しく活動することができ、良い経験になった」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「自分Webbing」の交流活動等に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した生徒の割合は8.0%で（図1）、生徒の振り返りシートの記述には、「ふだん、自分や友達の『強み』を考えることはないので、自分の『強み』を知る良い機会になったと思う。これからは『強み』を見つけていこうと思う」とありました。ふだん取り扱わないテーマの学習における参加状況に対しては、やや否定的な自己評価をしているものの、学習内容に対しては肯定的に捉えていることが分かりました。今後も、このような生徒が学習にスムーズに参加することができるように、グルーピングや座席配置、個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

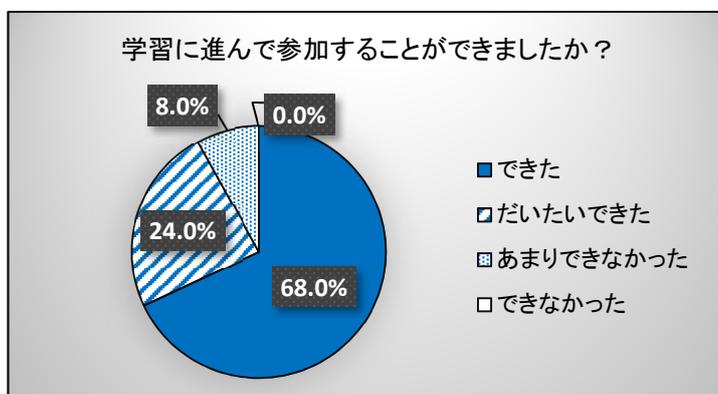


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は56.0%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は40.0%でした（図2）。また、生徒の振り返りシートには、「グループで話し合いながら伝え合うことができたので楽しかった」「グループのみんなでコミュニケーションをとったので、ワークシートに書いていなくても、話しているうちにそれぞれの『強み』を感じることができた」という記述が複数見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「自分Webbing」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。一方、「できなかった」と回答した生徒の割合は4.0%で（図2）、生徒の振り返りシートの記述には、「人に気付かせてもらうためにも、自身のことを伝える力を付けておかなければならないと思った。書き記し方、判断力、発表の仕方など、自分に足りないものが明確になった気がした」とありました。ふだん行わないグループでの交流活動において、特に、自己表現力に関して否定的な自己評価をしているものの、自らの課題に対する前向きな感想が見られました。今後も、このような生徒が交流活動で互いの考えや気持ちをスムーズに伝え合うことができるように、全体への指示の出し方の工夫及びグルーピングや座席配置、個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

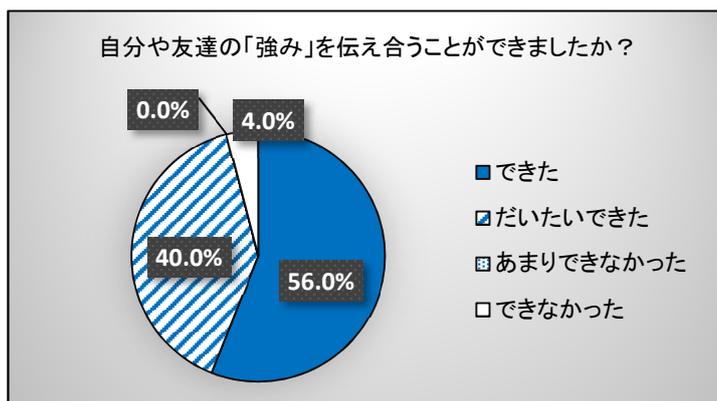


図2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は64.0%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は24.0%でした（図3）。また、生徒の振り返りシートには、「ウェビングの内容が少なかつたにもかかわらず、友達を書いてくれた『強み』を見て、自分にそんな『強み』があったことに気付かされた」「自分が苦手だと感じている部分もプラスに考えて、それを『強み』にすることも大切だと思った」という記述が複数見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「自分Webbing」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。一方、「できなかった」と回答した生徒の割合は4.0%、「あまりできなかった」と回答した生徒の割合は8.0%で（図3）、生徒の振り返りシートの記述には、「今日知った『強み』が本当に自分の『強み』なのかは分からないが、友達の良いところなどを改めて考えることができたので良かった」とありました。他者から伝えられた内容に対して懐疑的な思いを抱いているものの、学習内容に対しては肯定的に捉えていることが分かりました。今後も、このような生徒の学習効果を高めることができるように、

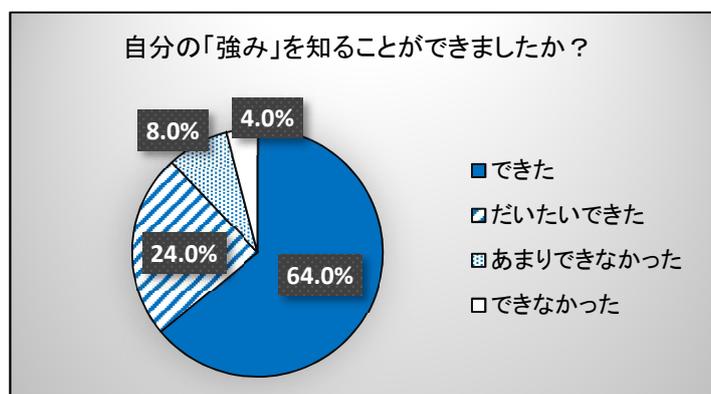


図3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

個別の言葉掛けや他の教育活動と関連付けた継続的な取組が必要であると考えます。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は64.0%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は32.0%でした（図4）。また、生徒の振り返りシートには、「あまり話したことがない友達の意外な一面を知ることができて良かった」「友達の『強み』を知ったことで、自分にどんなことが足りないのかも分かって良かった」という記述が複数見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「自分Webbing」の交流活動等を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した生徒の割合は4.0%で（図4）、3時間の学習を振り返った生徒の感想には、「物事を軽々しく断言しないことが自分の『強み』とは言え、人の『強み』をしっかりと考えてあげられなかった。根拠の小さい偏見を提案しただけになってしまった」とありました。友達の「強み」を言語化して伝えることへのためらいや自分への無力感がありつつも、自らの課題を真摯に受け止める謙虚な姿勢も見られました。今後も、このような生徒の学習効果を高めることができるように、個別の言葉掛けや他の教育活動と関連付けた継続的な取組が必要であると考えます。

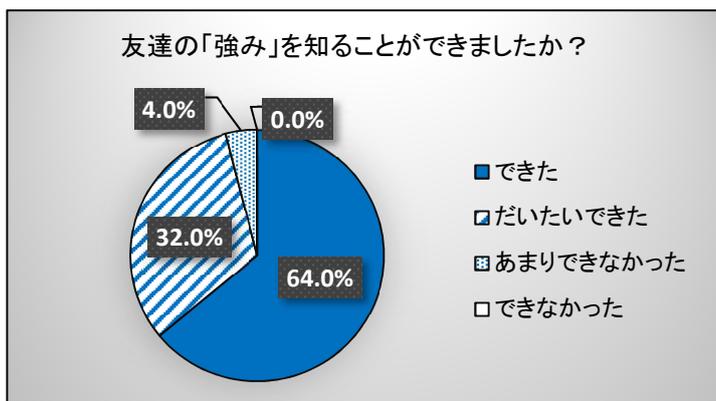


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、1時目の授業において、ほとんどの生徒は意欲的に授業に参加し、自分や友達の「強み」を知り、それを伝え合うことができたことが分かりました。一方、振り返りシートの全ての質問項目で「あまりできなかった」又は「できなかった」と回答した生徒がいました。その理由として、自己肯定感に関するアンケートの結果や振り返りシートの記述、日常の観察等の見取りから、この生徒の自己肯定感の低さが回答に影響していることが考えられます。また、ふだん取り扱わないテーマの学習やグループでの交流活動に対する警戒心及び自分の考えや気持ちを表現することへの抵抗感があったことも考えられます。しかし、厳しい自己評価をしているにも関わらず、学習内容に対する肯定的な感想や自らの課題を真摯に受け止める謙虚な姿勢が見られました。これらのことから、直接的に自分の「強み」を見付けるのではなく、友達の「強み」を見付けると同時に友達から「強み」を見付けてもらったり、それを伝え合ったりする交流活動をより丁寧に展開することが重要であると考えます。また、このような生徒が学習に抵抗なく参加することができるようなグルーピングや座席配置、個別の言葉掛け等の配慮に加えて、授業以外の場面でも本人の成長を具体的にフィードバックするなどの個別の言葉掛けが必要であると考えます。

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察 (B高等学校 第1学年 1時目)

◆本時の考察の視点

本時のねらい『強み』に着目した交流活動を通して、自分や友達の『強み』を知ることができるようにする」を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートの記述や授業中の様子等も参考にしています。

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたかを考察します。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができましたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は82.5%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は17.5%でした（図1）。また、生徒の振り返りシートには、「ふだん、自分の『強み』について考えたり、友達の『強み』を伝えたりすることがないので、良い経験になった」「ウェビングが意外と広がらず苦戦したが、自分や友達の『強み』を見付けて伝え合うという貴重な活動ができ、楽しかった」「最初は『強み』とは何かが分からなかった

が、みんなと活動していくうちに、何となく分かるようになった。しかし、まだ、その不確かな『強み』をどう生かしていけばいいのか全く分からないので、このあとの授業でそれを知ることができるというなど思った」等の記述が見られました。これらのことから、生徒は「自分Webbing」の交流活動等に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたと考えます。

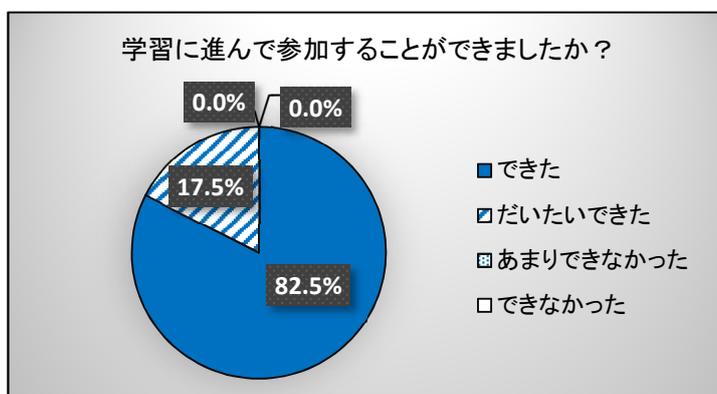


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は80.0%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は20.0%でした（図2）。また、生徒の振り返りシートには、「ふだんの生活の中ではなかなかできないことなのに、こんなふうになんか話しかうことで互いの『強み』に気付けることは、素晴らしいことだと思った」「グループでの活動を通して、他の人から自分がどう思われているのかが知ることができ、楽しかった」「ふだん、なかなか話す機会がない人と互いに伝え合うことができ、互いのことを今まで以上に知ることができて良かった」等の記述が見られました。これらのことから、生徒は「自分Webbing」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。

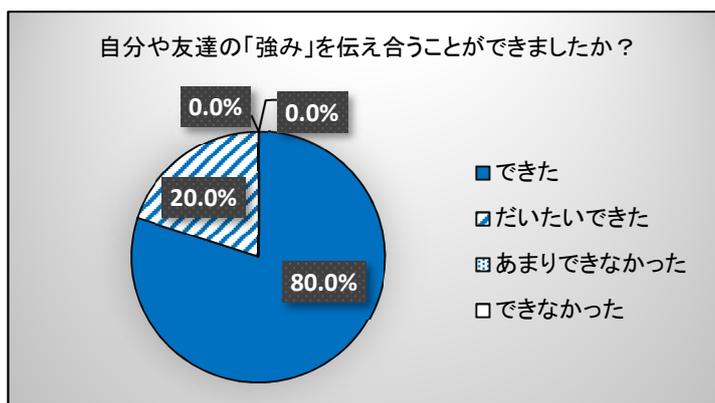


図2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は80.0%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は20.0%でした（図3）。また、生徒の振り返りシートには、「自分の『強み』はほとんどないと思っていたが、見方を変えることによって、自分の『強み』を知ることができた」「自分の『強み』について、自分の意見と友達の意見とを比べながら考えることができた」「書き出すことで、自分自身も意識していなかった自分の『強み』だけでなく、自分が大切にしていることやそこから学べることも見付けることができ、とても良い時間になった」「自分の内面にしっかりと向き合ったことで、自分の何が強くて何が弱いかが分かった。自分の『強み』が分かることで自分に自信をもつことができるので、自分の『強み』をもっと見付けて自信につなげていきたい」等の記述が見られました。これらのことから、生徒は「自分Webbing」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。

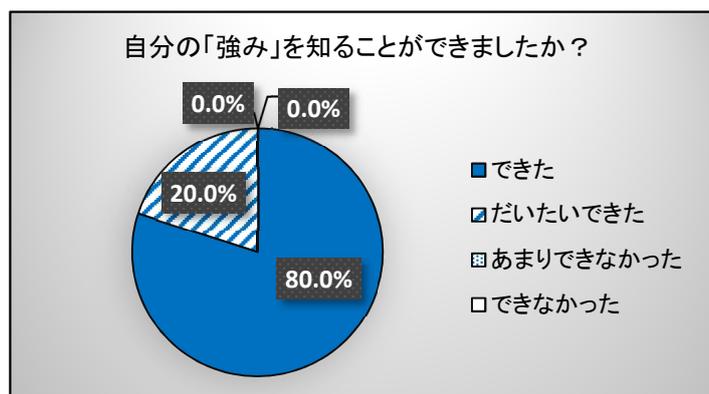


図3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は95.0%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は5.0%でした（図4）。また、生徒の振り返りシートには、「友達の『強み』を考慮することで、その人についてもっと知ることができた」「友達のウェビングを見て、意外と知らないことが多く、新しい発見をすることができて楽しかった」「友達の意外な一面を知ることができて、興味深いものとなった」「友達の『強み』を知る良い機会になったので、友達の良いところも自分の中に取り入れていきたい」等の記述が見られました。これらのことから、生徒は「自分Webbing」の交流活動等を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

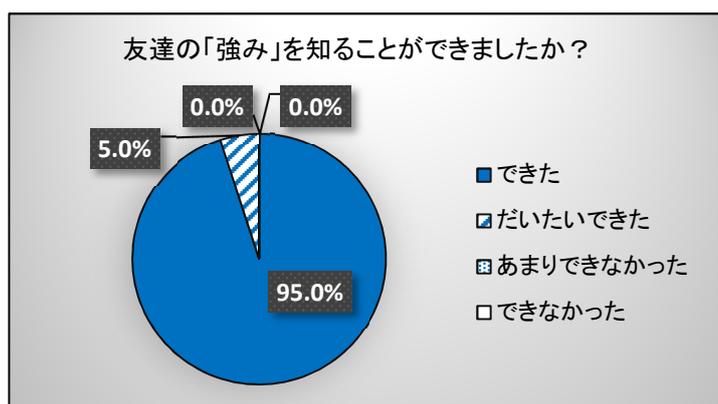


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、1時目の授業において、生徒は意欲的に授業に参加し、自分や友達の「強み」を知り、それを伝え合うことができたことが分かりました。生徒の振り返りシートには、「友達の『強み』はすぐに書けたけれど、自分の『強み』を書くのは難しかった。しかし、活動する前よりも思考はプラスになった」という記述が見られ、振り返りシートのアンケート結果からも、生徒は、自分の「強み」を見付けることよりも友達の「強み」を見付けることの方が容易であったと感じていることが分かりました。また、生徒の振り返りシートの記述や授業中の様子等からは、ふだん取り扱わないテーマの学習やグループでの交流活動に対して、最初は、若干の抵抗感があったものの、次第に、学習内容を肯定的に受け止めたり、グループでの交流活動に意欲的に参加したりしたことも分かりました。これらのことから、直接的に自分の「強み」を見付けるのではなく、友達の「強み」を見付けると同時に友達から「強み」を見付けてもらったり、それを伝え合ったりする交流活動が、生徒の実態に即した効果的なものであったと考えます。また、学習が進むにつれて、生徒が交流活動によって得られるものを有意義に感じていったことから、今後も交流活動を丁寧に展開することが重要であると考えます。